

第71回国際理解・国際協力・多文化共生のための高校生の主張コンクール東京都大会 金賞

東京朝鮮中高級学校 高級部 3年

金 蘭華

課題①

これから生まれてくる未来世代にとってあるべき世界の姿とはどんなものとするか。

そのために私たちが優先して取り組むべき課題とは何か。

副題

なし

皆さんにとって、理想の世界とはなんですか？戦争のない世界、格差のない世界、喜びに満ちた世界…。考えればきりがないことでしょう。実際、私にもこうあってほしいという理想はたくさんあります。ですが、そんな全ての理想を差し置いてでも、まだ幼い後輩たちのために叶えたい、いや、実現しなければならない理想が私にはあるのです。

私は、小学生のころから今までの12年間を、朝鮮学校で過ごしています。朝鮮学校は、第二次世界大戦時に労働力を補うため、朝鮮半島から連れてこられた在日コリアンが創設した学校で、今ではその血を受け継いだ四世、五世が全国に約六十ある朝鮮学校で、民族の歴史や文化、言葉を学んでいます。異国の地で同じバックグラウンドを持つ友達と共に学び、高めあう学校生活は、何事にも代え難い大切なものですが、その一方で、つらく悲しいでき事もたくさん経験してきました。例えば、付属中の後輩が朝鮮人だからと暴言を吐かれ、暴力を受けたり、多くの生徒が利用する通学路に、朝鮮人に向けた差別的な落書きがあったり、日本社会における朝鮮人および朝鮮学校への抑圧は、後を断ちません。なぜ私たちの存在は否定されるのでしょうか。自分の国について学び、心置きなく学校生活を送ることの何がいけないのでしょうか。私はこんな思いを、後輩たちにさせたくはありません。そのためにも、私は、全ての人の声が無視されずに尊重され、国や文化、性別に関わらず、個人の尊厳が守られた世界を目指すべきだと思うのです。私は、個人の尊厳なくして、理想を叶えることはできないと思います。それは、個人の尊厳が守られない世界には必ず矛盾が生じ、差別が生まれるからです。だからこそ、理想を達成していく前に、まずは尊厳が守られた世界を構築すべきだと、私は考えています。これにより、最近ではマイノリティと言いつつ表すようになった様々な分野の少数派たちも、何不自由なく生活できるのではないのでしょうか。

では、そのような世界を構築するために、私たちができることとは一体なんなのか、考えてみましょう。私は、すべての人の声に積極的に耳を傾け、今まで蓄積されてきたあらゆるステレオタイプを切り捨て、対話を試みることだと思います。もちろん、偏見をなくすことは、容易ではありません。ですが、偏見のない目で相手を見つめ、理解しようとする姿勢は、心意気一つで誰もが持ちうるものではないのでしょうか。皆さんが大好きな家族や友人の言葉に耳を傾けるように、同じ社会に生きるたく

さんの人の声にも、耳を澄ましてみてください。きっと、今まで知らなかったこと、勘違いをしていたことがたくさん見えてくると思います。マイノリティや悩みがある人も同じです。他人を怖がったり自分の存在を隠そうとしたりせずに、相手を信じて自分を打ち明け、悩みを共有することで、今まで怖いものだと思い込んでいた社会に対する印象が変わることでしょう。実際に、私は朝鮮人としての自分を隠すことをやめて、自分に正直になれました。自分が思っているよりも、自分の存在を理解してくれる人がたくさんいるということに、気づくことができたのです。

私が思う理想の世界とは、このようにすべての人が自信を持って、胸をはって生きていける世界です。私は、こんな世界を未来の子どもたちに提供することを心から願っています。この願いを実現させるためにも、高校生である私たちがまずは手を取り合い、お互いを理解し、理想の世界構築のために、議論を行っていきましょう。